

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	学童ホール支援グループ		
取組の名称	子どもを見守るみんなの居場所作り事業		
実施場所	たまっ子学童ホール		
対象地域	川崎市多摩区		
対象地域の特色・課題	<p>近隣に小学校が多くあり、子育て世代の多い地域である。 新しく保育園もでき、遅い時間まで働く母親の多いことがわかる。 シニア世代も多いが、活躍できる場は少ない。</p>		
取組の趣旨・目的	<p>○共働き家庭やひとり親家庭の親子を支援する。 ○地域の人にも気軽に立ち寄ることができる、みんなの居場所をつくる。 ○多世代が交流し、みんなで子どもを見守る。</p>		
実施内容・実施スケジュール	<p>①放課後児童健全育成事業 学校休業日は朝7時から21時まで、学校のある日は放課後から21時まで、放課後児童支援員が保育する。 ②地域交流のイベント開催 たまっ子どうぶつしょうぎ大会、たまっ子まつり ③こども食堂（毎月第三金曜日）ほかほか御飯の会主催</p>		
参加者の年代	①小学生 ②幼児～大人 ③乳児～大人	定員 （1回あたり）	①25名 ②なし ③40名
実施頻度	①月曜～土曜日 ②しょうぎ大会（年11） たまっ子まつり（年3） ③月1回	活動日数 （年間）	295日

<p>スタッフ体制</p>	<p>①2～6名 ②しょうぎ大会・2～4名 たまっ子まつり・5～10名 ③2～3名+ほかほか御飯の会</p>
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>ほかほか御飯の会 こども食堂は、事前にこちらで予約を受け付けた後、買い出し・準備・調理・片付けの全てをお任せしている。 当日は15時半から台所と二階を貸し出す。近隣のシニアボランティアも数名が交代で手伝いに来てくれている。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>①新型コロナウイルスは子どもの感染が拡大し、手洗いがい・トイレはひとり使用毎にアルコール消毒した。弟妹の保育園がコロナ休園となるケースも多く、その期間、学童児である兄姉は事務室預かりでの保育とした。黙食を徹底し、 学童児に陽性者が出て他に感染者を出さず、休室せずに済んだ。保護者も安心して預けることができた。 年間を通して広くボランティアを募っていることで、小学校教諭や保育士を目指す学生も受け入れ、学童児たちにも良い経験となっている。</p> <p>②たまっ子まつりは、まん延防止等重点措置が延長になり3月は中止としたが、7月と11月は入り口で手の消毒と検温に協力してもらい、人数制限と室内消毒をしながら開催した。学童児は店番を手伝い、地域の人との交流も楽しんだ。</p> <p>どうぶつしょうぎ大会は、いつ中止になっても大丈夫なように毎月の開催を計画し、その結果8月以外の毎月開催となった。地域の人や学校のお友達など、誰でも参加できることで好評を得ている。</p> <p>③こども食堂は、シニア中心の他団体主催のため、感染予防で中止にせざるを得ない月が多く残念ではあった。開催する月も、持ち帰りのみとした。 中止にしたことで、より一層シニアの大切な活躍の場であることを感じている。</p>